

ストレーナーの使用と厨芥の搬出経路

水環境にやさしい台所ストレーナーの開発 (その4)

大阪市大生活科学 ○北浦かほる 川崎薫里 山崎かおる

1. はじめに 浅型のモニター調査の結果、中型・深型志向者はストレーナーに「ゴミを溜める」機能を求めていた。彼らを浅型へ転向させるには調理時の生ゴミ処理方法の画期的な提案が必要である。本研究では、現在各家庭で行われている生ゴミ処理方法とその搬出経路を把握することによって、ストレーナーの使用とゴミ箱の設置場所の関係を明らかにし、シンク周りにおける生ゴミ処理方法の解決策を再考してみたい。

2. 調査の概要 調査対象に神戸市の学園緑が丘(住都公団の開発)の工業化住宅を選定した。調査内容は生ゴミの搬出経路とゴミ容器の設置場所及び浅型ストレーナーの使用等で723件に依頼し267件の回答を得た。住宅規模は平均112㎡、平均家族数は3.7人、共働きは約31%、夫婦の年齢は40代が中心で親との同居は約14%であった。

3. 結果と考察 生ゴミの搬出経路のタイプ分けを行った結果、Ⅲ<シンク→屋外→収集所>44.9%、Ⅰ<シンク→台所→屋外→収集所>28.9%、Ⅱ<シンク→台所→収集所>9.6%の3タイプが大勢を占めた。これは集合住宅を調査対象に含む前研究注)と同傾向であるが、台所のゴミ容器が44.7%(前61.3%)と減り、屋外のゴミ容器が80.2%(前71%)と増加している。台所に臭気や汚れのもととなる生ゴミ容器を置くことを嫌う傾向がさらに強まっていた。調理時のゴミ処理方法はストレーナー47.4%、ビニール袋30.7%、三角コーナー14.9%で、前研究で57.1%もあった三角コーナーが減りビニール袋の利用が目立つ。深型ストレーナー使用者が浅型を使いたくない理由は98.1%がゴミを溜められないであった。意識改革のための環境教育も重要課題である。